

二次性副甲状腺機能亢進 (SHPT) 症患者におけるシナカルセト (CC) とエテルカルセチド (EC) の消化器症状の比較

長崎腎クリニック 長崎腎病院

○橋口純一郎 船越哲 河津多代 田中健 原田孝司

【目的】

新規上市された Ca 受容体作動薬 EC と先行発売の Ca 受容体作動薬である CC の消化器症状を定量化して比較する

【方法】

対象は CC を服用中の SHPT の外来透析患者 21 名で、CC から EC に変更前と変更 2 か月後に、機能性消化管障害質問票である出雲スケールと便性状の国際基準であるブリストルスケールを用いて消化器症状のアンケートを行い、消化器症状を定量化した。

【結果】

CC から EC に変更後、胸焼けスコアが 2.04 から 0.76 ($P < 0.05$)、便秘スコアが 2.09 から 1.19 ($P < 0.05$) と有意に低下した。その他の出雲スケール評価項目やブリストルスケールでは有意差は認めなかった。血液検査では i-PTH は EC 変更後低下傾向にあったが有意差なく、補正 Ca 値も変化なかった。

【考察】

Ca 受容体作動薬による消化器症状の機序は、消化管に存在する Ca 受容体に作用して胃の排泄能低下が低下する事が疑われている。今回、CC から EC に変更した後に、食物の消化管通過時間を反映するブリストルスケールに差が認められなかった事より、食物排泄とは別の機序の消化器症状が存在するのかも知れない。

【結論】

EC は CC より消化器症状が少ない。